

REPORT 2016 冬 ロシアの展示への取り組み (前)

HELLO TEDDY!

12月1日～4日 Tshinskaya (モスクワ)



FANTANIMA! 賞受賞作品 ヴェドゥヤギナ・オリガの「ネズミ」

① FANTANIMA! ブースでは、日本作家の作品を紹介しました(コリスミカ、Takuto すがわら、亀島利子、クサボン、kimiko、新家智子)。ロシアでも FANTANIMA! の評判は広がり出品希望の問い合わせが相次ぎました。
 ②異端ペアのビシュニのペア。コンテストで老いぼれたペアをユーモラスに表現し特別賞を受賞しました。
 ③ HELLO TEDDY! 会場。
 ④売れ筋の安定路線の作風が目立つなか、ロボットのぬいぐるみでファンを驚かせたのはジレンキナとシンコヴスカヤのジョイントブース。実はジレンキナは3年前からロボットは作っていたのだとか。



INFORMATION

FANATNIMA! 2017 カタログ制作プロジェクト

第5回目となる今回の会期は以下のとおりです。
 東京展 2017年5月3日(水)～9日(火)
 大阪展 東京展の後の3週間ほどを予定
 次回の美術テーマは「水」。

2016年にカタログを制作したところ、大変ご好評で次回も希望される声が多く、そのつもりでさらに多くの作家をロシアで取材してきました。
 制作費捻出のため、またクラウドファンディングに取り組む予定です。インターネットで告知致しますので、皆様の応援をよろしくお願い致します。
<http://fantanima.nonc.jp/>
<https://twitter.com/fantanima>



タンス・レイメンス (エストニア) FANTANIMA!2017 出品作品

チャリティー創作人形展

2017年3月7日(火)～3月12日(日)
 東北大震災で被害を受けた東北の子供たちの育英資金を募るチャリティー人形展。21名の参加を予定。今年で3回目を迎え、チーム・コヤアラも後援致します。
 主催 チャリティー創作人形展実行委員会
 熊谷美智子、萩原啓子、前田陽子、森山幸子、知神けい子
 会場 偕楽園公園センター
 水戸市見川 1-1251

書籍紹介 『四谷シモン ベルメールへの旅』

1月刊行
 2010年10月にベルメール生誕の地、カトヴィツェで行われた『四谷シモンと友人たち、日本におけるベルメール展』のために四谷シモンがポーランドを訪れた旅を詳細に記録。
 菅原多喜夫著
 四六版、上製、カラー写真入り 2000円
 愛育出版 TEL03-5604-9431



コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000円 (更新時に2年分一括払いの方は3900円となります。)
 年4回(1・4・7・10月)のチーム・コヤアラのニュースレターとDM便が届きます。

お申し込み方法

年会費2000円を以下の方法でご送金ください。
 【郵便振替】 通信欄に「コヤアラ入会」とお書きください。
 送金先 「口座番号」00140-7-358370 「口座名」チーム・コヤアラ
 *ご入金を確認できたらチーム・コヤアラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤアラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM同封希望の方(発行月から3ヶ月の間に展覧会を予定されている方)

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封DMは発行月の前20日にチーム・コヤアラ必着でお送りください。
 同封料金 コヤアラ・クラブ会員：2000円 一般(非会員)：3000円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
 29号×切 2017年3月1日(必着)
 以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

作品写真2~3点(全体・アップ・裸形) サイズ：ハガキ大。
 「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
 *何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載は一人1点になります。
 *応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)
 *応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤアラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤアラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ
 東京都東村山久米川町3-27-57 HAZEKI office 内
 TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)
 FAX 042-395-7975
 URL <http://koyaalajp/>
 Email team_koyaalaj@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)
 ©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。

KOYAALA 通信 No.28 Jan.1, 2017



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日(予定) 1月1日、4月1日、7月1日、10月1日

謹賀新年 本年もどうぞよろしくお祝い申し上げます。

第3回チーム・コヤアラ 創作人形公募展 審査発表

第3回チーム・コヤアラ 創作人形公募展にて、下記の方が受賞されました。おめでとうございます。

- チーム・コヤアラ賞 ホシノリコ「星灯り〜ほしともしり」
 - 四谷シモン賞 古城真理「親の願いに守られて すくすくと」
 - 羽関チエコ賞 En「おこりんぼな小人さん」
 - 奨励賞 原田万紀「赤い靴」
 - 奨励賞 鈴木久恵「秋へ旅立つフロラ」
 - 奨励賞 ちゃお「金魚姫」
 - 奨励賞 ほびっと工房「小鳥の巣」
 - 奨励賞 小野由美子「Glückspilz」
 - 奨励賞 はちす「トライデント」
 - コヤアラ・フェス賞 deeper-bj 「Inustagram」
- 展示期間 2016年11月15日～20日 76名出品
 NHKふれあいホールギャラリー (東京・渋谷)

密度の濃さ

羽関チエコ

制作を始める時は、技術やセンスを上げることが当面の目標になると思います。その力がついてくると、真面目な人ほど技術の高い人は技術に、センスを先取りしたい人はスタイルに依存してしまう傾向があります。技術やスタイルは誰でも努力をすれば到達します。それは大切なことですが、それを作る本人が何を思っているのかが創作の大切な要素です。チーム・コヤアラはその点に着目して、いろいろ想像しながら審査を進めさせて頂いています。だから技術や様式の完成度が目立ってしまう方にとっては不利になってしまうことがあります。だからといってアイデアやイメージが先行して消化不良の造形に落ち着いてしまうケースもあります。日本人は真面目な性格の方が多く、技術を真面目にやっていることや凝ったスタイルを取り入れることが良い評価に結びつくと思われる傾向があり、実際に一般の方も好評価を与えます。しかし職人的なスタンスが目標でない限り、技術やスタイルは手段でなく、自分を語ることになりません。かえって既存の流行スタイルを採用される方は、他では格好いいと見られても、当公募展では安易に見られますので注意された方がいいです。

これらの要素の調和がとれた作品は、密度の濃さとして目に映る印象がありました。チーム・コヤアラ賞を受賞されたホシノリコさんの「星灯り」は、この公募展のために2年がかりで制作されたということです。造形、素材、構成を何度も自問自答しながらこの形に落ち着いたということで、こちらの抱いた疑問は既に検討済みで明確な答えや迷った過程などが返ってきました。何故この素材なのか、この線なのか、母性愛の印象に安易に落ち着かせたくない…等々。その時間の密度が作品の存在感に映りこんだのだと思います。

四谷シモン氏の賞は、古布を丁寧に仕立てた古城真理さんの「親の願いに守られて すくすくと」になりました。江戸時代の庶民の子供を描いたこの人形は、着物背中に魔除けの背守、腰に守り袋、当時流行った唐子風髪型と、時代考証もしっかりされています。ここに描かれていない親の姿や背景が偲ばれるような秀作です。筆者の賞は、Enさんの「おこりんぼな小人さん」です。装飾との兼ね合いに課題はありますが、サーニットを使った個性の強い表情を一貫して描く Enさんの姿勢にたくましさを感じました。今回の3回目の開催を経て、リピーターの方が前回までの講評を生かし、確実に前進されている様子を見ることができました。これは主催者としても大変嬉しいことでした。ご自身の目標と立ち位置をしっかりと保って制作に励んで頂ければ幸いです。



deeper-bj 「Inustagram」



En「おこりんぼな小人さん」



ホシノリコ「星灯り〜ほしともしり」

古城真理「親の願いに守られて すくすくと」



四谷シモン (11月14日 審査中)

— 「え？」というものはありましたか？

『『え？』というより、『あ、そうですか。』という感じですね。

器用だと何でもできちゃうんだと思う。抑制をしなければいくらでもふくらんでくる。

『すごいね』と思っても、ぐっとくるものがないね」

「包帯ものがまだ残っているんですね。腫れ物とか。もっと普通で、あ、いいなというものがいいです。

アイデアではなく。多少あってもいいけど……」

ゲスト作家語録

※敬称略 発言と写真作品の関連はありません。
動画は You Tube で一部公開予定です。公開のお知らせは
紙面、ウェブサイトなどでご案内致します。

井桁裕子 (公開講評 11月18日)

「どうしたら良くなるのかそういうことは言えなくて、例えばもっと観察することなのかもしれないし、もっと自分の表現したい世界を見つけることなのかもしれないし、いくらでも可能性があるの、それを言っているのかというのは私もわからなくて……。これはこれで可愛いし何が悪いというところはなくて、この先をどうするかというのは、人に決めてもらえないのが創作の世界ですよね」

つじとしゆき (公開講評 11月19日)

「球体関節人形展」以降、球体関節人形というものがひとつの記号になった感覚があります。球体関節人形を作ると、それまでにやってきた偉い先生達の世界観ですよという記号的な意味をもってしまふ。記号的なものが悪いということではなくて、記号的であるが故に伝わる即効性は強いのです。たとえば箱、黄ばんだりボン、鎖とか。あらゆるものが記号化されていてその世界観にすぐに入っていける。その記号が文字だったらと

ても心地よい文字列になっている。だけど記号的であるということは、ある意味二次創作的であるということが避けられない部分があると思ってます。自分の感情や、こういうものを作りたいというのが、うすく感じられるんじゃないかと。」



MEETING & PARTY



写真 古城真理さん(四谷シモン賞受賞)と四谷シモン氏

11月14日、搬入と審査のあと、渋谷の会場で審査発表を兼ねた「チーム・コヤール ミーティング&パーティ」が行われました。いつもイベントにご協力頂いている作家の方々がゲストに迎え、70名あまりの参加者が集った会場では時間いっぱい、制作や作品に関する質疑応答が活発に行われました。(於・リーフガーデンカフェ)



REPORT 2016冬 ロシアの展示への取り組み(前)

ART OF DOLL

12月16日～18日 Gostiny Dvor (モスクワ)

ロシアの展示に欠かせないチーム・コヤールの仲間、ヴェラとユーリ夫妻。アーティストである彼等は、チーム・コヤールの考えに賛同し、展示では東方に徹し、ロシアの人に日本のアートを伝えるお手伝いをしてくれています。

ART OF DOLL でのチーム・コヤールの展示

ブラソヴァ・ヴェラ Vlasova Vera

(チーム・コヤール モスクワスタッフ)

ART OF DOLL でチーム・コヤールブースを訪れた人々は隅から隅まで作品を鑑賞し、時には何度も繰り返し訪れる人もいました。彼等は外側の印象だけでなく、なかに作家が込めた深い意味も見えていました。私は会場でたくさんの人と話をしました。私のみたちと、誰もが何か特別なものをこの展示に見いだされたようです。

高い技術があるからこそ、作品に自然に魂の思いを込めることもできます。そのような人形を作ることは、調和の法則に基づく宇宙の活動と同じです。新しく世界を動かすものは、誰もが見たことのない、経験したこともない、感じたことのないようなものとして現れます。そういう人形は、人形という限られた世界のなかで、来場者が今まで真実と思っていた考えを拡張させるために再考を促すことになるのです。日本の創作人形における言語は自由に満ちていて、あらゆる制限から解放されています。だからこそ、多くのロシア人作家や来場者のあいだで注目されました。

ロシアではよく知られるようになった新家智子さん。彼女は作品の外側の部分と、心の内側の部分の両方をうまく見せています。

水澄美恵子さんの「明子」はどこからみても完璧で自立した存在でした。まるで異世代の空間からやってきた訪問者のようでした。壊れ物のような心と純粋で繊細な魂を持つこの少女に魅了された人は彼女と離れることができず、この遠く離れた雪深いこの国に毎回店に来て欲しい、そうしたらまたこの子を抱きしめ、再会を喜ぶことができるからと言いました。亀島利子さんの「母と子」はま



チーム・コヤールのブース (左から) 新家智子、広野多衣子 (奥)、FANTANIMA!、月光社、水澄美恵子、野原 tamago (手前)、亀島利子 ※敬称略

展示に参加して

現地ツアーに参加された方にご感想を頂きました。(敬称略)

つじとしゆき (月光社)

ART OF DOLL は優れた作家、美しい会場、日本文化に理解の深いコヤール現地協力スタッフとがそろう、出品したことに十分な意義を感じることができる大会であった。特に会場で作品の説明を現地の人達に説明してくれていたユーリ氏(ヴェラのご主人)の存在はわたしのようによくコンセプトを重んじる作家にとって頼もしいものであり人形の展示の価値を高めてくれたと確信した。また作品の出品を目的としなくとも冬のモスクワの美しさ、価値のある文化財の見学をあわせれば、ART OF DOLL は訪れる価値のあるドールショーであることを読者の皆さんにお伝えしたいと思う。

新家智子

今回で三度目になる ART OF DOLL ですが、毎回、ご来場下さるお客様、海外作家さんのお人形に対する愛情や情熱に、ハッとさせられる。普段決して、不真面目に人形を作っているわけではないけれど、それでも自分自身の取り組み方を再度、見直したくなります。ロシアでは、年齢を問わず小さな子供達や男性までも、私の子供(人形)と向き合い、頬を緩ませ、子供達を連れてモスクワに来たことを喜んでくれる。そんな光景を目の当たりにする事で、益々、自分の人形に対する姿勢を考えさせられる。自分自身が愛せる子だから、見てもらえるし、見てもらいたい。誠実に生み続けていけたらと思います。

亀島利子

ロシアは重厚な国で流石だと思いました。この国の人々のアートへの知識が高いと感じました。展示会も、ドイツの Spring Doll Festival より来場者のアートに対する関心が高いという印象がありました。日程に観光が入っていたのですが、展示にはできるだけ多くの時間参加したほうが良いと思いました。日程があと一日長ければ良かったと思います。ロシアのチーム・コヤールスタッフのヴェラ夫妻は、日本人でもあそまでしてくれない。親子といってもいいくらい本当に最後の日まで面倒を見て下さりありがたく感じました。

広野多衣子

初心者の私でもモスクワ「ART OF DOLL」に参加させていただけて、とてもラッキーでした。昨年9月からバジコの教室に通い始めて以来、日本でも人形展の情報を知る度に可能な限りは足を運びました。今回、海外の人形展を初めて体験し「うわぁ！レベル高い！」と衝撃的で大変勉強になりました。ビスク、アンティーク、民芸調、ミニ、ぬいぐるみ、リアルベビー、アート系と、種類の豊富さに驚きました。特にアート系がすごく素敵で圧倒されました。材料屋さん達のコーナーでは日本では手に入らないような眼鏡、まつ毛、毛髪や、繊細なレース、ミニチュアの小物など色々な掘り出し物がありました。同行の作家の皆様と一緒に旅をさせていただいてアドバイスもいただき、爽りの多い挑戦となりました。ありがとうございました。



(左から) 広野、ユーリ、新家、つじ、羽関、ヴェラ、マリア (通訳)、亀島 ※敬称略

REPORT 2016冬 ロシアの展示への取り組み(前)

変化の早さ

「ロシアは変化が早い」とは当のロシア人が言うほど、ロシアは変化のスピードが早いです。人形の世界も同様で、展示会のシステムや出品の顔ぶれ、流行の作風が著しく変化します。

内容も然り。ユニークな動物のぬいぐるみ作家を輩出した HELLO TEDDY! は今年も流行の作風が大半を占め、各自試行錯誤はしていますが、全体として一律的な印象を受けました。この傾向は動物ものに限らず創作人形にもいえるのですが、ロシアの作家は技術力が優れていて、素材と技法の壁を自由に行き来します。こだわりがないのかと心配になるくらい、別のスタイルに乗り換えて完成度の高い作品を作る人も多いです。それは一方で、その人ならではの特徴がどこにあるのか判別を難しくさせ、どこかで見たような普遍的なスタイルに落ち着かせてしまうことにもつながっています。もちろん、一目で作者を特定できる特徴を持つ作家も健在ですが、昨今のロシア経済危機が一部の才能ある作家たちの表現の冒険にブレーキをかけているのかもしれない。

しかしロシアのプロの作家の技術と素材、造形、設定と考証を統合する工芸的な完成度、美術品として見せるための目標設定の高さは、日本

チーム・コヤールでは2016年12月にモスクワで開催された HELLO TEDDY! と ART OF DOLL の出展サポートに取り組みました。目を見張る豪華な人形展、変化の早さ……。当通信では今号と次号2回にわたり、ロシアの状況をレポート・分析致します。

の作家は大いに参考にして頂きたいと思います。

今年の ART OF DOLL は、企画展示にあたるプロジェクト・ブースで若い作家がインスタレーションで気を吐いていました。日本でいうなら個展に相当する発表になります。開放的な会場空間のなかで、それぞれが世界観や思想、ファンタジーをしっかりと見せる構成を考えて展示を作り上げています。そういう展示に出会うとはるばる出向いた甲斐を感じます。次号でそれらのいくつかをご紹介します。

26カ国から約1000人の作家が参加したという今年の ART OF DOLL。

チーム・コヤールブースでは月光社のつじとしゆきさんと、新家智子さん、亀島利子さん、広野多衣子さんが現地参加されました。また、京都の市松人形工場の「朋」さんも出展されていました。少ない紙面ですが、次号ではつじとしゆきさんのロシア人形観もご紹介させて頂く予定です。(羽関)